

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月

株主確定基準日 (1)定時株主総会・期末配当 3月31日
(2)中間配当を実施する場合 9月30日
(3)その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を設定いたします。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 および お問合せ先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711(通話料無料)

単元株式数 100株

公告方法 当社のホームページに掲載します。
<http://www.kanefusa.co.jp/koukoku.html>
ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。

(ご注意)

特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、日本証券代行株式会社が口座管理機関となっておりますので、以下記載の特別口座の口座管理機関に、お問合せください。

特別口座の口座管理機関 日本証券代行株式会社
連絡先 〒168-8620
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
日本証券代行株式会社 代理人部
電話 0120-707-843(通話料無料)

ホームページのご案内

<http://www.kanefusa.co.jp>

当社ホームページでは、財務データやトピックス情報など、最新のIR情報や製品情報などをご覧いただけます。

兼房株式会社



PROJECT- With the Earth
この冊子の印刷・製本に係るCO2はPROJECT- With the Earthを通じてオフセット(相殺)しています。

KANEFUSA

株主・投資家の皆様へ 証券コード 5984

第66期

報告書

平成25年4月1日～平成26年3月31日

兼房株式会社

- ▶ 連結貸借対照表
- ▶ 連結損益計算書
- ▶ 連結キャッシュ・フロー計算書
- ▶ 連結株主資本等変動計算書

- ▶ 日本木工機械展
- ▶ メキシコに海外現地法人を設立
- ▶ 愛知環境賞を受賞

- ▶ 会社概要
- ▶ 役員
- ▶ 株式の状況

本報告書に掲載されている当社の計画・戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確実な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、見直し等と大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。将来予測に関する記述に全面的に依拠することはお控えいただけますようお願いいたします。

海外シェアの拡大とグローバル品質の向上で 世界のトップメーカーを目指します。



取締役社長

渡邊 将人

2014年3月期の業績について お聞かせください。

国内市場は、消費税増税を控えた駆け込み需要が、当社製品をお使い頂いている広範な産業の設備稼働率を上昇させたことから、住宅関連刃物を中心として堅調に推移しました。海外市場は、景気も底を打った感があり、当社受注の回復も昨年暮れあたりから顕著になってきました。おかげさまで第4四半期以降は全生産拠点でフル稼働状態が続いています。

エリア別に見ると、中国は、中国国内の自動車産業を中心として順調に受注を頂いています。生産拠点としては、上期こそ海外向けの生産が伸びず厳しかったものの、下期は欧州景気の回復等を受けて操業度が上がりました。インドネシアでは昨年生産ラインを増強し、現在フル生産体制になっています。欧州は長らく景気低迷の影響を受けていましたが、ドイツを中心に回復傾向にあり、コスト削減を進めていたことも功を奏し利益が上がってきています。アメリカ市場は自動車関連を中心に引き続き順調です。昨年12月にはメキシコに新しい法人(カネフサメキシコS.A. DE C.V.)を設立しました。アメリカ現地法人と同様、営業と再研磨サービスを中心に、自動車産業を攻略していく予定です。新興市場では、インドがローカル企業を含めて新規開拓を進めており売上を伸ばしています。

この結果、2014年3月期の売上高(連結ベース)は17,154百万円(前期比12.9%増)、営業利益は1,247百万

円(前期比39.0%増)となりましたが、純利益に関しては本社工場敷地内の土壌改良工事費用を特別損失として計上したことから、500百万円(前期比29.9%減)となりました。

特別損失(土壌改良工事)の事情について お聞かせください。

昨年、本社工場敷地内に新事務所棟を建設するため地質調査を行ったところ、土中からふっ素・ほう素が検出されました。1970年代に産業廃棄物を埋め立て処分していたことが原因です。ふっ素・ほう素が有害物質に指定されたのは2001年のことで、埋め立て当時は所轄保健所の許可も取った上での適法な処理でしたが、今回、負の遺産を将来に残さぬように、汚染土壌をすべて掘削除去し、基準適合土壌に入れ替える工事を行うことにしました。

土壌改良工事の後、来年3月には新事務所棟が完成する予定です。このオフィスでは、事業部の技術スタッフ、営業、資材、生産技術まで、180人を一カ所に集めようと思っています。事務所が分散していることでコミュニケーションが不十分だと感じていましたので、これを機に改善し、社員の総合力で課題がすみやかに解決できる体制を整える所存です。

2014年度より「世界のトップメーカーへ」というスローガンのもと新中期経営計画がスタートしますが、その狙いは?

前中期経営計画の3年間は、リーマンショックを発端とする欧州の経済危機そして超円高と、市場環境は極めて厳しい状況でした。そうした中で「優勝劣敗」、すなわち強い企業が残って弱い企業は淘汰されてきました。我々も「生き残りをかけた挑戦」としてグローバル化を推進してきましたが、その方向性は間違っていないと思います。この先も予期せぬ環境変化があるでしょう。そのときに、素早く柔軟に対応できる企業

だけが生き残っていくと考えています。

カネフサはいま、世界で業界2位のポジションを得ていますが、今度の中期経営計画では製品・人材・サービス全てでトップを目指します。トップメーカーになるということは、それだけ大きな責任も負うことになります。そのことを社員全員が認識し、もう一度モノづくりの原点に立ち返ってあらゆることに見直しをかけていきます。売上に関しては、少子高齢化・人口減少などに伴う市場縮小傾向の国内では、住宅市場のシェアアップと新規市場の開拓で現在の100億円規模を堅持。今後の売上高の拡大は海外を中心とし、将来的には海外売上高比率を50%にまで高めていきたいと考えています。製造に関しては、地産地消推進とコスト低減のため、さらなる海外移管を進め、中期経営計画最終年度には海外生産高比率を約33%とする計画です。また、グローバルな品質管理を徹底することで、KANEFUSA品質なら中国製、インドネシア製でも日本製と差はない「世界同一品質」ということをユーザーに認知してもらい、グローバル生産体制を強固なものにしていきたいと考えています。

最後に株主の皆様へメッセージをお願いします。

土壌改良工事に伴う特別損失によって、純利益ベースでは減益となってしまいましたが、環境への不安を残さないために今やるべきことだと判断しました。何卒、ご理解をいただければと思います。今後とも売上・利益を伸ばしつつ、配当性向30%は堅持してまいります。新しい中期経営計画のもと、全社一丸となって取り組んでまいりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。



世界トップメーカーへの「飛躍」と「責務」

新中期経営計画は、兼房グループ売上高200億円の早期実現に向けた「新たな成長戦略へのスタート」と位置づけます。

当社の活動すべてを業界トップメーカーとして目標とされるものに高め、全社員がプロフェッショナル

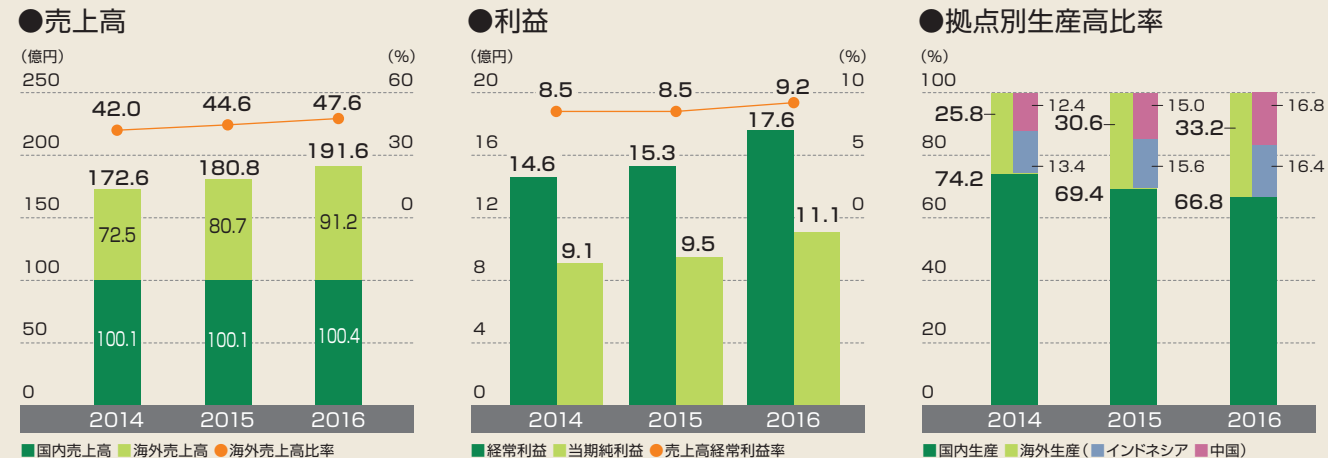
としての誇りを持ち、目標を100%達成する強い信念と迅速な行動で各課題に対応することで、世界トップメーカーとして確固たる地位を築き上げます。

1 中期ビジョン
兼房グループ2016年度
売上高 **191** 億円の**実現**

2 中期ビジョン
最適分業体制の確立
(日本・インドネシア・中国)



経営目標



地域別売上高計画

(単位: 百万円)

国	2014	2015	2016	
内	10,010	10,010	10,040	
海外	アジア	3,920	4,350	4,850
	アメリカ	1,460	1,610	1,810
	ヨーロッパ	1,730	1,950	2,270
	その他	140	160	190
	海外合計	7,250	8,070	9,120
総合計	17,260	18,080	19,160	

製品別売上高計画

(単位: 百万円)

	2014	2015	2016
平刃類	5,500	5,720	6,030
精密刃具類	3,910	3,990	4,090
丸鋸類	7,650	8,160	8,820
商品	200	210	220
総合計	17,260	18,080	19,160

※2014年度から「カッター類」の名称を「精密刃具類」へ変更しました。

概況

当連結会計年度における世界経済は、米国では金融緩和の出口政策が模索されながらも個人消費の増加や堅調な住宅市場を背景に景気は緩やかな回復を続け、また、長く低迷が続いた欧州でも成長率が僅かながらもプラスに転じ回復の兆しを示し始めましたが、中国・インド・ブラジルなどの新興国においては成長ペースの鈍化が更に長期化する様相となっております。

一方、わが国経済は、政府・日銀の財政・金融政策による円高是正や株価上昇を背景にした輸出環境の好転や企業収益の改善が見られたことに加え、年度後半には消費増税前の駆け込み需要によって個人消費が増加し回復局面が継続しました。

このような状況の下、当社グループは、海外生産の増強、グローバル市場での販売拡大、国内住宅関連市場の占有率拡大や非住宅関連市場の開拓などを目指し、戦略

的な製品開発、生産、営業活動を展開いたしました。

売上高

国内における売上は、消費増税を控えた駆け込み需要や復興需要などを背景に新設住宅着工件数が増加し、住宅関連刃物は堅調に推移いたしました。年度後半の駆け込み需要は、当社製品ユーザーである広範な産業の設備稼働率を上昇させたことによる刃物需要増をもたらしました。一方、海外での売上も、米国市場で自動車関連刃物、東南アジア市場等で合板関連刃物や自動車関連刃物などが好調に推移し、当連結会計年度における売上高は171億5千4百万円（前年同期比12.9%増）となりました。

利益

利益面では、海外生産子会社での設備増強に伴うコストアップ要因などがあったものの、売上高増加による生産性向上が奏功し、営業利益は12億4千7百万円（前年同期比39.0%増）となり、経常利益は為替差益1億4千2百万円を計上したことなどにより13億9千3百万円（前年同期比26.5%増）となりました。また、特別利益では投資有価証券売却益2億1千8百万円を計上したものの、特別損失では当社本社工場敷地内の一部土地において過去に埋め立て処分した産業廃棄物による土壌汚染が判明し、対象廃棄物及び汚染土壌を全量掘削除去するための工事費用見積り額を環境対策費として7億1千7百万円計上したことなどから、当期純利益は5億円（前年同期比29.9%減）となりました。

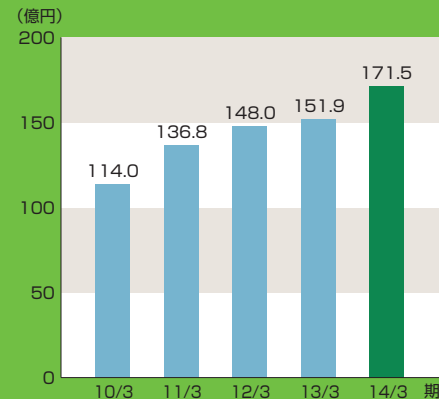
来期の見通し

今後の経済見通しにつきましては、世界経済は、米国や欧州経済では緩やかな回復が期待されるものの、新興国経済では成長ペースの鈍化が懸念され、また、為替相場の動向や国際政治情勢は予断を許さない状況が続くものと予想されます。一方、わが国経済は、景気回復が見られるものの、消費増税後の反動減が今後懸念されるなど、依然として先行き不透明な状況が続くものと思われま。

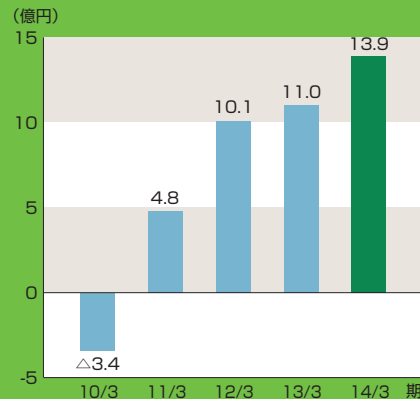
このような状況の中で、当社グループはさらなるグローバル展開を積極的に推進し、海外生産・売上の拡大を図るとともに、グループ全体での製造原価低減などによる収益体質の改善を継続的に進めてまいります。

次期の連結業績見通しとしては、売上高は172億6千万円、営業利益は14億8千万円、経常利益14億6千万円、当期純利益9億1千万円を見込んでおります。

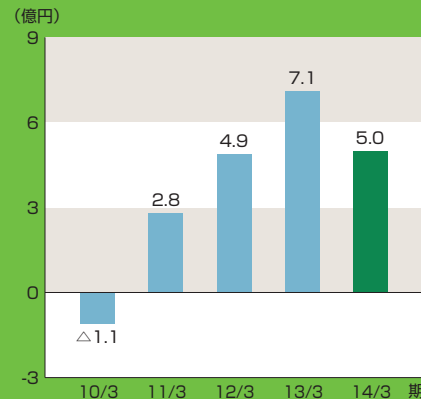
売上高



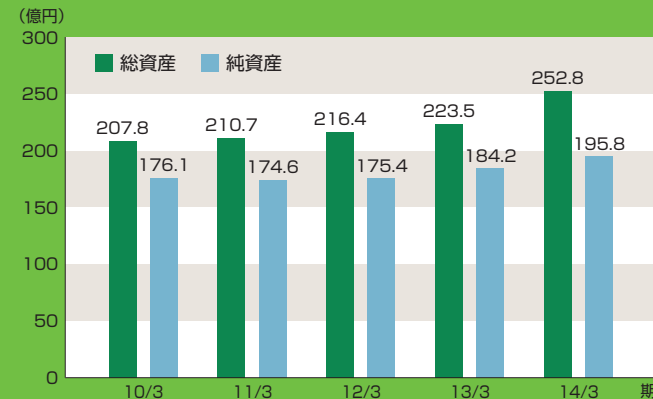
経常利益又は経常損失(△)



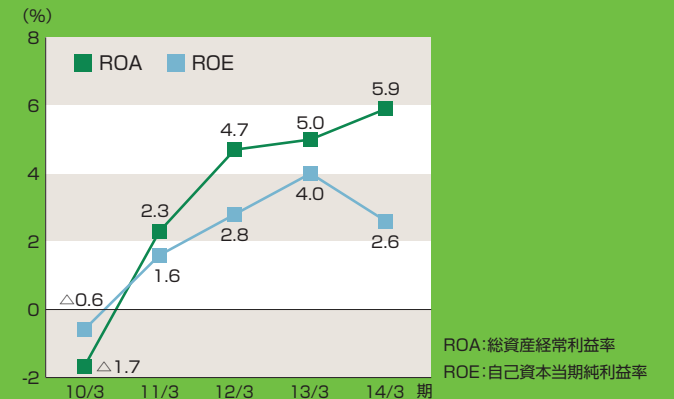
当期純利益又は当期純損失(△)



総資産・純資産



ROA/ROE



ROA:総資産経常利益率
ROE:自己資本当期純利益率

総資産

当期末の総資産は、前期末比29億2千2百万円増加して252億8千1百万円となりました。流動資産は同24億2千万円増加の143億5千7百万円、固定資産は同5億1百万円増加の109億2千3百万円となりました。流動資産増加の主な要因は、商品及び製品が前期末比5千9百万円減少したものの、現金及び預金が同13億4千2百万円、受取手形及び売掛金が同7億5千6百万円、それぞれ増加したことなどによります。

固定資産増加の主な要因は、有形固定資産では機械装置及び運搬具が同4億7千5百万円増加したことなどによります。

負債

当期末の負債の合計は、前期末比17億5千6百万円増加して56億9千4百万円となりました。流動負債は同14億5千2百万円増加の46億4千4百万円、固定負債は同3億3百万円増加の10億4千9百万円となりました。

流動負債増加の主な要因は、環境対策引当金として4億6千4百万円を計上、未払法人税等が前期末比4億3千4百万円増加したことなどによります。また、固定負債増加の主な要因は、退職給付に係る負債として7億1千1百万円を計上したことなどによります。

純資産

当期末の純資産は、前期末比11億6千5百万円増加して195億8千7百万円となりました。この主な要因は、利益剰余金が2億8千4百万円増加し、その他の包括利益累計額が8億8千万円増加したことなどによります。

なお、自己資本比率は前期末の82.4%から77.5%となり、1株当たり純資産額は前期末の1,325円26銭から1,409円11銭となりました。

連結貸借対照表(要旨)

単位:千円

科目	期別	当期	前期
		平成26年3月31日現在	平成25年3月31日現在
(資産の部)			
流動資産		14,357,746	11,937,167
固定資産		10,923,961	10,422,524
資産合計		25,281,707	22,359,691
(負債の部)			
流動負債		4,644,602	3,191,643
固定負債		1,049,732	746,186
負債合計		5,694,334	3,937,830
(純資産の部)			
株主資本		18,764,236	18,479,300
その他の包括利益累計額		823,137	△57,439
純資産合計		19,587,373	18,421,861
負債純資産合計		25,281,707	22,359,691

連結損益計算書(要旨)

単位:千円

科目	期別	当期	前期
		平成25年4月1日から平成26年3月31日まで	平成24年4月1日から平成25年3月31日まで
売上高		17,154,555	15,197,261
売上原価		11,531,946	10,227,395
売上総利益		5,622,608	4,969,865
販売費及び一般管理費		4,375,439	4,072,549
営業利益		1,247,169	897,315
営業外収益		190,592	264,451
営業外費用		44,197	60,116
経常利益		1,393,564	1,101,650
特別利益		245,329	516
特別損失		736,920	54,789
税金等調整前当期純利益		901,974	1,047,377
法人税等		401,547	333,355
少数株主損益調整前当期純利益		500,427	714,021
当期純利益		500,427	714,021

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位:千円

科目	期別	当期	前期
		平成25年4月1日から平成26年3月31日まで	平成24年4月1日から平成25年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		2,228,268	1,591,821
投資活動によるキャッシュ・フロー		△395,043	△2,006,830
財務活動によるキャッシュ・フロー		△215,492	△208,621
現金及び現金同等物に係る換算差額		97,004	110,894
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)		1,714,737	△512,736
現金及び現金同等物の期首残高		2,815,961	3,328,698
現金及び現金同等物の期末残高		4,530,699	2,815,961

連結株主資本等変動計算書(要旨) 当期(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

単位:千円

	株主資本					その他の包括利益累計額				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	2,142,500	2,167,890	14,377,441	△208,531	18,479,300	297,743	△355,182	-	△57,439	18,421,861
当連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△215,458		△215,458					△215,458
当期純利益			500,427		500,427					500,427
自己株式の取得				△33	△33					△33
株主資本以外の項目の当連結会計年度中の変動額(純額)						△53,901	1,106,216	△171,738	880,576	880,576
当連結会計年度中の変動額合計	-	-	284,969	△33	284,935	△53,901	1,106,216	△171,738	880,576	1,165,511
当期末残高	2,142,500	2,167,890	14,662,411	△208,564	18,764,236	243,841	751,034	△171,738	823,137	19,587,373



日本木工機械展

2013.11.6 ▶ 9

「日本木工機械展／ウッドエコテック 2013」がポートメッセなごやで開催され、当社も出展いたしました。同展示会は木材加工機械をはじめ、刃物、林業機械など木材関連の最新技術や製品が展示されます。今回の展示会において、当社が開発した「ヘリスクエア」が技術優秀賞を受賞しました。同製品は強リード角に超硬替刃を装着することにより、毛羽立ちのない良質な切削面を可能とします。今後もこのような展示会を通して「技術の兼房」をアピールしていきます。

メキシコに海外現地法人を設立

2013.12

成長著しいメキシコ市場において自動車、鋼管、建材関連などの工業用機械刃物の需要増大が見込まれることから、これらの需要にスピーディに対応し、海外販売を拡大することを目的として、2013年12月 メキシコ グアナファト州 シラオ

市に「カネフサメキシコ S.A. DE C.V.」を設立しました。

社名	KANEFUSA MEXICO S.A. DE C.V.
住所	Carretera45 Leon-Silao KM. 156/400, Parque Industrial Bajio Int.27, Silao, Gto, Mexico, C.P.36270
資本金	MXN 3,500,000



Information

会社概要 (平成26年3月31日現在)

商号	兼房株式会社 KANEFUSA CORPORATION
設立	昭和23年11月25日
資本金	21億4,250万円
本社所在地	愛知県丹羽郡大口町中小口一丁目1番地
従業員数	556名
主要な事業内容	工業用機械刃物・工具・工作機械・機械部品の製造販売。ならびに、関連する事業に対する投融資及び技術供与。
主要な事業所	本社・工場 愛知県丹羽郡大口町 支社 中部 関東 関西 営業所 札幌 仙台 広島 高松 福岡
子会社	PT.カネフサインドネシア カネフサUSA,INC. カネフサヨーロッパB.V. 昆山兼房高科技刀具有限公司 カネフサインディア Pvt.Ltd. カネフサ ドブラジル LTDA. カネフサメキシコ S.A. DE C.V. 大口サービス株式会社

株式の状況 (平成26年3月31日現在)

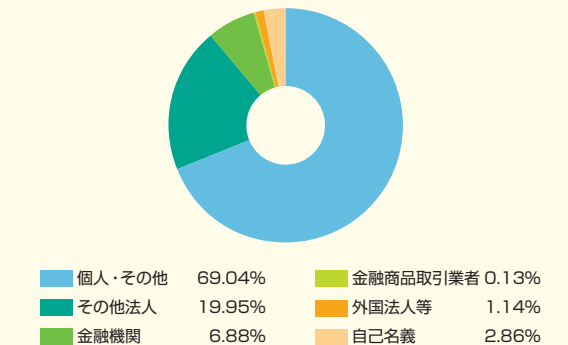
発行可能株式総数	39,000,000株
発行済株式の総数	14,310,000株
株主数	1,924名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
大口興産株式会社	2,299	16.5
渡邊 裕子	1,230	8.8
太田 万佐子	1,191	8.5
兼房従業員持株会	900	6.4
渡邊 美奈子	745	5.3
渡邊 浩	743	5.3
渡邊 将人	426	3.0
太田 正志	402	2.8
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	216	1.5
株式会社りそな銀行	200	1.4

(注)持株比率は自己株式(409千株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



役員 (平成26年6月26日現在)

取締役社長	渡邊 将人	取締役	萬谷 哲朗
専務取締役	太田 正志	取締役	石田 信之
常務取締役	平子 哲朗	取締役	山川 寿康
常務取締役	西尾 悟	取締役	林 繁樹
常務取締役	鈴木 仁	常勤監査役	森 隆生
取締役	春日 晃	監査役	辻中 修
		監査役	鮎澤 多俊

愛知環境賞を受賞

2014.2

愛知県より、資源のリサイクルや環境負荷低減に対する優れた取り組みをした企業として「2014愛知環境賞 優秀賞」を受賞しました。当社の木材加工用コーティング技術が省エネや省資源に大きく貢献していると評価されました。このコーティング技術を用いた製品としては、超仕上鉋刃、エンシン替刃、チップソー、ルータービット、フィンガーカッター等があり、住宅部材のプレカット加工や家具部材の集成材加工で活躍しています。

